

旅する仙台藩主

仙台市博物館 学芸企画室 菅原 美咲

第16回
(最終回)

江戸時代は多くの人びとが旅をできるようになった「旅の時代」ともいえます。一方で諸大名にとっては、江戸と国元を往復する参勤交代の旅を除けば、自由に旅することができない不自由な時代でした。しかし、大名は自領内であれば自由に移動することができたため、歴代の仙台藩主も国元にいる間は、仙台藩内の各地を何度も旅しました。その旅の目的には湯治、狩猟、領内視察などさまざまありましたが、なかでも歴代藩主の多くが出かけたのは狩猟の旅で、日帰りから一カ月近くにおよぶ場合もありました。

絶好の狩り場・遠島

初代藩主伊達政宗が狩猟の旅をした地に遠島があります。遠島は現在の牡鹿半島一帯とその周辺の島々を示す呼称で、江戸時代は牡鹿郡に属していました。政宗は遠島で鹿狩をし、千頭近くを捕ったといわれます。また、政宗の息子忠宗も遠島で「山追い」をして、クマ・キツネ・イノシシ・シカ・オオカミなどを獲て、随行する家臣らに分け与えました。こうした狩猟は、獲物を追い立てる役割をする勢子などを山中の各所に配置するため、多くの家臣や地元に住民らが動員

され、大規模な軍事演習という側面も持ちました。遠島は、藩主が大規模な狩猟をするのにふさわしい場所だったので。

五代藩主伊達吉村の遠島猟遊

享保十年（一七二五）二月十五日、五代藩主伊達吉村は遠島へ狩猟の旅に出ました。吉村は出発に際して随行する家臣に旅中の心得を発令しました。難所のため荷物を軽くすること、旅宿の不自由を厭われないこと、地元百姓に対し迷惑行為を行わないこと、領民にとってはまれな機会であるから吉村一行を見物するのを許すことなど、家臣の規律を正すとともに、旅先の領民に配慮する姿勢がうかがえます。

一行は利府・松島・矢本を経て、石巻から船で牡鹿郡の桃浦へ渡り、遠島各所で鹿狩りを行いました。多い日には四千五百人



御分領絵図のうちの遠島付近 仙台市博物館蔵



遠島記 仙台市博物館蔵
伊達吉村が遠島猟遊で詠んだ和歌を記したもの

次号からは新コーナー「のぞいてみよう！せんだいの歴史」がスタートします。

以上の家臣や地元の領民を狩猟に動員しました。旅中、吉村はかつて政宗や忠宗が野営した場所を訪れ往事の話を聞いたり、雄勝硯の職人を訪問したり、仙台藩の重要な献上品である子籠りのサケの仕込所を視察するなどしました。村に住む藩士や村の代表者である肝入宅で昼食や宿泊をし、折々に自筆で書いた和歌を詠んでは滞在先の家主にそれを下賜するなど、旅先の領民と直接交流もしました。三月三日、吉村は半月にわたる旅を終えて仙台城に戻ります。吉村にとってこの旅は、狩猟の旅だけでなく、先祖の足跡をたどる旅、領内視察、風雅の旅とさまざまな意味を持っていたのです。

吉村以後の藩主も領内各所を旅し、旅先でかつての藩主の足跡を巡り、領民と交流しています。地域の人びとにとっては、雲の上の存在である藩主を身近に認識する機会となったのではないのでしょうか。そうした意味で、仙台藩主の旅は、藩主にとっても領民にとっても特別な旅であったといえるでしょう。



機関誌 市史せんだい Vol.30 最終号!

第一特集 歴史資料の保存・活用と自治体史編さん事業
座談会ほか、論文1本、報告1本
第二特集 伊達政宗文書
史料紹介：伊達政宗文書・補遺(十四)
伊達政宗文書・補遺(一)～(十四)総目録
令和3年12月24日発行 A5判 154頁 700円(税込)

市史編さん事業の活動報告や調査・研究成果を紹介する機関誌「市史せんだい」の最新刊です。本号が最終号となりますので、ぜひご覧ください。

お求め方法

仙台市政情報センター(郵送・窓口)、
仙台市博物館(郵送のみ)で販売
しています。詳しくは仙台市博物館
ホームページをご覧ください。
(QRコードからアクセスできます)



仙台市博物館
SENDAI CITY MUSEUM

▶博物館ホームページ [仙台市博物館](http://www.sendai-shihaku.jp) 検索 ▶お問い合わせ 〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡)
TEL:022-225-3074 8:30-17:15 ※土・日・祝休日を除く

※当館は現在、大規模改修工事のため休館しています。令和6年4月に再開予定です。